

# 解放直後・在日済州島出身者の生活史調査（5・上）

——高蘭姫さんへのインタビュー記録——

藤永壯／高正子／伊地知紀子／鄭雅英／皇甫佳英／  
高村竜平／村上尚子／福本拓／塚原理夢

A Survey of the Life Histories of Resident Koreans in Japan  
from Jeju Island in the Immediate Postwar Period (5) —Part I—  
—An Interview with KOH Ranhee—

FUJINAGA Takeshi, KO Jeongja, IJICHI Noriko, CHUNG Ahyoung,  
HWANGBO Kayoung, TAKAMURA Ryohei, MURAKAMI Naoko,  
FUKUMOTO Taku, TSUKAHARA Rimu

本稿は、在日の済州島出身者の方に、解放直後の生活体験を伺うインタビュー調査の第5回報告である。この調査の目的や方法などは、「解放直後・在日済州島出身者の生活史調査（1・上）」『大阪産業大学論集人文科学編』（第102号, 2000年10月）に掲載しているので、ご参照いただきたい。

今回の記録は、大阪市在住の高蘭姫さんのお話をまとめたものである。高蘭姫さんは1930年ごろ兵庫県西宮市で生まれた。解放直後に韓国・済州道済州市朝天邑新村里（現在の行政地名）に帰国、その後再び渡日され大阪市で生活されている。

インタビューは2006年12月23日、大阪市の高蘭姫さんのご自宅で、高正子・伊地知紀子・鄭雅英・皇甫佳英・高村竜平・村上尚子・塚原理夢の8名が聞き手となって実施し、その後2007年10月20日には高村が確認のために再度高さん宅を訪問した。今回の原稿については、高村が全体の整理と校正、村上が用語解説、福本が参考地図の作成、藤永が最終チェックを担当した。

また、高蘭姫さんの生涯については、すでに以下の記事で取り上げられたことがある。

「母に詫びた半世紀の「親不孝」高蘭姫さん」『月刊イオ』第110号, 2005年8月（文・写真：鄭茂憲）

「生涯現役11時間の心臓手術に耐え抜いた高蘭姫さん」『朝鮮新報』2006年7月24日（朴日粉）

平成19年10月31日 原稿受理  
大阪産業大学 人間環境学部

記者)

宋連玉「4・3事件を体験した在日朝鮮人女性たち」『季刊前夜』第11号, 2007年4月  
고단희「아버지, 불효 자식 용서해 주십시오」『재일제주인 4・3 증언 채록집』제주 4・3  
사건지원사업소, 사단법인 제주 4・3 연구소, 2003(高蘭姫「お父さん, 親不孝な子を許して  
下さい」『在日済州人 4・3 証言採録集』済州 4・3 事件支援事業所, 社団法人済州 4・3 研  
究所, 2003年)

以下, 凡例的事項を箇条書きにしておく。

- (1) 本文中, 文脈からの推測が難しく誤解が発生しそうな場合や, 補助的な解説が必要な場合は, [ ] で説明を挿入した。
- (2) とくに重要な歴史用語などには初出の際\*を付し, 本文の終わりに解説を載せた。前号および前々号に掲載した第4回報告で解説した用語については, 丸数字で報告番号を, アラビア数字で注番号を記し, かつこでくった(例:(④-\*13)は第4回報告の\*13をあらわす)。また, 2000~2001年の第1回から第3回の報告でとりあげた用語は「(再掲)」と記して解説した。
- (3) 朝鮮語で語られた言葉は, 一般的な単語や固有名詞などの場合には漢字やカタカナで, 特殊な単語や文章の場合はハングルで表記し, 日本語のルビをふった。
- (4) インタビューの際に生じたインタビュアー側の笑いや驚きなどの反応については, 〈 〉で挿入した。

なお本稿は言うまでもなく, 高蘭姫さんの証言からとくに重要と思われる箇所を中心に抜粋, 編集したものである。できるだけ客観性に配慮しつつ証言を再現しようと努めたが, 編集の手が入っている以上, 叙述に編者の主観が反映されている可能性は排除できない。本稿の内容に関する責任は全面的に編者にあることを, あらかじめおことわりしておく。

## 戦時中, 西宮での生活

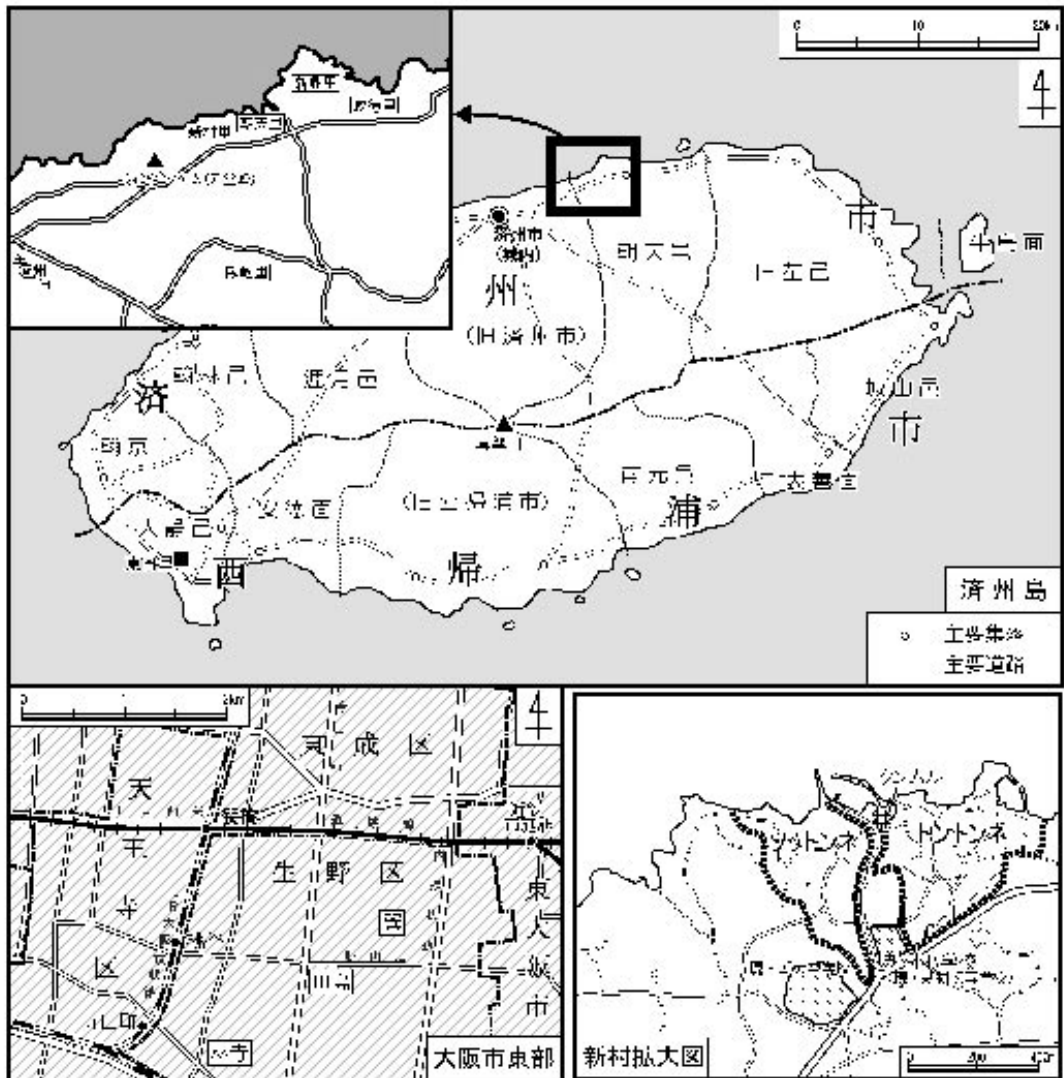
### 《家族, 父の仕事》

——生年月日は? 千九百何年生まれですか。

高: 私? ええと76 [歳] やから [19] 30年と違うかな。

——生まれたところは, どこですか?

高: 私は兵庫県西宮市。兵庫県西宮市今津西谷町14番地。それも, もうずっと。そこで15歳くらいまで大きくなったから, 分かってます。そこで解放された時が, 15歳か14歳の時でした。学校も途中やったと思いますわ。私の父親が, まずは, すごい国を愛する, 愛国心の強い人でしたね, 今考えたら。



—— [お父さんは] 何年に来たんですか？

高：ええと、向こうで結婚して来てるから。たぶん密航して。徴用\*1で来てるからね。  
 もう40なんぼで死んでるから。来た時がいくつかは、私は分からん。たぶん年齢的に考  
 えたら、やっぱり20歳代で来たと思いますよ。徴用で来て。日本でそこに住みましたわ  
 ね。ずうっと一緒に、うちのお父さんも。うちのきょうだいが、[母が] 子ども7人産  
 んでますねん。全部、女の子ばかりです。男の子一人できたけど、死にましてん。

—— 2番目ですか？

高：2番目。お姉さんが七つ違いの上。

——ということは、23年生まれ。女史<sup>ヨサ</sup>ニム [社会的に活動する女性への敬称、ここでは高蘭姫さんを指す] と長女さんの間に男の子がおって、その子が亡くなった……？

高：できてから、すぐに亡くなった。肺炎で。日本やったら治るけど、[当時の] 濟州島<sup>さいしゅうとう</sup>は医学が発達してないやんか。

——女史<sup>ヨサ</sup>ニムからが日本で生まれた？

高：そうそう。

——今津で、その時、お父<sup>ア</sup>さん<sup>ボジ</sup>は何の仕事をしてたんですか？

高：それは、吉原製油株式会社\*<sup>2</sup>いうて、大きく、今でもあると思いますよ。ほんとに海の近くの大きな工場です。そこでね、お父さんはアメリカの捕虜のね、捕虜に、あの当時、その会社がね、仕事さして。朝迎えに行行って送るときに、私のお父さんが迎えに行行って送る、そういう役をやってましたわ。そしたら南京豆の会社やからね、南京豆で油絞るの違う？ それ [南京豆を] ポケットにいっぱい入れて、行きながら。私にね、お父さん通るから、言うて。珍しいでしょ、アメリカ人やから。ほんで行ったらね、ええ人らやで、アメリカ人も。みんなポケットから [南京豆を] 出してくれたり、やって。

そういう人がどこに住んでたかと言うと、いま甲子園球場あるでしょう、あの甲子園球場の、入場の入り口あるでしょ。あの下に皆を寝かしたったんや。そこまで送って行って、そこまで迎えに行行って。

——いくつぐらいの時に、そなん見ましたん？

高：私がね、そうやね、もう10歳そこらで、もう物事分かって、そなん見ましたよ。

—— [お父さんが] 徴用で最初に行ったところは？ 西宮ですか？

高：最初に行ったところは、私は聞いてないけど、その吉原製油、違う？ あそこで何十年て言うてるから。あそこも軍需工場やから。そこでずうっと住んでるから、えらいし、家も2軒も買えてるし。

《西宮での学校生活》

——どこの小学校に行行ってたんですか？

高：小学校は今津小学校いうて。今津小学校あります。

—この学校には朝鮮人の子は多かったんですか？

高：いやあ、そんなに多くはなかったなあ。おっても知らんのかなあ。私のクラスでは、二人だけやってん。女の子二人だけ。金城のぶ子、いうてね、あの当時の学校の名簿もあるんですよ、その当時の。すごい大きな学校ですわ。見ます？

—女史ニムヨサの名前は何かやったんですか？ 高蘭姫コナンヒで行ってたんですか？

高：私はその時からね、高山幸子たかやまさちこなんて、私の言いたくないぐらいね。これが、その時の名簿。学生がすごい多いの。

—金城さんが同胞やと分かったんは、話しててですよ？

高：いやあの、話もちろん、近くに住んでたん。同じ朝鮮人やということね。同じクラスで、親しくやってました、その子と二人で。シノギ [金城のぶ子さんの本名] って。

—シノギって言うんですか。学校で使ってたのはノブコやけど、呼び合うときはシノギって？

—女史ニムヨサは何て呼ばれてたんですか？

高：私は？ タマちゃん。みんな、うちの家の中では。学校だけは、サチコ。もともとこれが、むかつくわけやねん。なんで人の国の民族のな、姓と名前を変えるということになってるの。わたしは今は、解放されてからは、すぐに高蘭姫コナンヒでいってますけどね。

—ここ [小学校の名簿] の朴サパクンドとか、本名の人、いてるのは、いてるんですね。

高：いたかも分からんわ。それはうちのクラスと違うから。全部は私は知らんからね。だいたい高山たかやまというのは、私らが高家コガやから、お父さん自体が日本の吉原製油でエライさんになって働いてるから、いちやく高山たかやまになってたと思うよ。私、今考えたら高蘭姫コナンヒで行ってたならよかったと思うけど、親がそうやらしたみたいやわ。

—そうすると解放になる前に、もう卒業されてるんですね。

高：もちろん。もちろん卒業前よ、これは小学校やから。わたしは高等女学校に行ってる時に解放されたんやから。西宮高等女学校 [現・西宮市立西宮高等学校] いうてね。そこに進学やってた時に解放されましたわ。お父さんが、解放されたから自分の国に帰ろう、いうことで、それで済州島さいしゅうとうにね、自分の船買って、下駄も箆もみんな自分の船に載せて帰国しました。

——船自体を？ 自分の船買って？ そこにはご家族以外は？

高：誰も乗せなくて。それほど、お金持ちみたいですね、今考えたら。家も2軒あったしね。お金がなかったら、解放されてすぐに自分の船で [祖国には帰れない]。半年にもなれへんぐらいで、ばば一っと引き揚げて帰りましたね、お父さんが。というのは さいしゅうとう 濟州島に行ってみたら、お祖父ちゃんとお祖母ちゃんが生きてましたわ。年いってね。自分の親がおったから、早はよ引き揚げて行っただと思います。

### 引き揚げから4・3まで

#### 《濟州への引き揚げ》

——この船で帰った場所が シンチョン 新村でしたよね？

高：もちろん、そうです。 チェジュドチョチョンミョンシンチョンリ 濟州島朝天面新村里 [現在の濟州道濟州市朝天邑新村里]。

——帰られたのが ヘバン 解放の、その年ですかね？ あるいはお正月過ぎて、その翌年になりますか？

高：と、思いますわ。翌年ぐらいやろうなと思います。その年は [解放が] 8月やから帰られへんもん。8月15日、解放なったから、翌年のね、冬の寒い時やったと覚えてますわ。サツマイモがね、食べられたなあ、あの時。美味しかった記憶がある。翌年に行ってるわ。

——兵庫県の港から出たんですか？ どこの？

高：私が出た時は、今のね、西宮。そこの海は広いし、船場がありますねん。その船場の前にちょうど吉原製油の会社があって、お父さんが、もとは会社に入る前から、入ってからでもね、よく船に乗ってましたわ。だから船着場はよう知ってる。

下駄が [濟州島に] 行って、すぐにポーンと折れたん覚えてる。石ころがいっぱいあって。下駄が折れたの。私ね、 さいしゅうとう 濟州島行った時、そら初めてやわな。この草家 チョガ チブ [藁葺き家] いう藁の家はね、これは一時の泊まる場所や思うて。後はもっと、こんな日本の瓦葺きの、こんな家に行くと思うてたわけ。すぐ入ったら木で、ざーっと板間で。部屋も、こんなくらの部屋二つあるだけ。炊事場いうたらもう、かまどが三つか四つぐらいあって、藁で炊いて。これは臨時やと。

「いつなったら自分の家に行くの？」って親に聞いたら、これが自分の、これから永

久に住む家やいうこと聞いて。私はこれから、もうここでは住めないっていうこと、自分で分かった。こんな恐ろしいところ、見たことないわな。日本でもずっとええ生活やってたもんから。阪急百貨店も阪神も、よう買いもん行くやん。私らのときは、服でも、みなお正月なんて、そこで買うてる記憶あるのに、「ええーっここ？」って。もうこれはあかんわ、と思て。どないかして密航でも来て、日本に飛んで来たろうかなと思てても、そのときには親がおるし、まだ娘やし。

### 《新聞用紙を没収される》

高：それでね、引き揚げて行って、それでこう、ある金も大分使って。あれやから、お父さんが日本にちょっと仕入れがあるということで。新聞をつくるのに紙がなかったです、<sup>さいしゅうとう</sup>済州島に。それでお父さんはいち早く、新聞〔紙〕を、自分の船があるから、密航で日本に買いに来た\*<sup>3</sup>。その時に私、一緒に連れて行ってもらったの。自分で言うのもおかしいやけど、きょうだいの中ではしっかりやってたんと違うかな。で、お父さんが日本に行くから言うたら、私も行く、言うて、一緒に来てん。西宮のね、今まで住んでたところはよう知ってるから、そこに船舶めて、それで新聞紙を<sup>じ</sup>買って、いっぱい積んで行きましたよ、私も帰る時に一緒に行きました。

その時に誰がどうしたか知ってる？ あの時アメリカがもう<sup>さいしゅうとう</sup>済州島のほうに来てましたよ、マッカーサーが、その政府が。その新聞〔紙〕、一所懸命に<sup>じ</sup>買って行ったの、みんな没収されたんです、アメリカ人に。それでうちのお父さんが、どういのか、病気になるってしまったぐらいに悔しんで。それこそ船も品物も没収して、お金くれへん時代。その時代のアメリカの勢力は。今、私考えたら、あの朝鮮も解放されたから、そんなことする権利はアメリカにないと思うのに、なぜあの時に、あんなったかなと思て。その悔しい思いをやってる、その2年後やね、あの<sup>よんでんさん</sup>4・3事件が起きたん違いますか？〈一同絶句〉

——そしたら<sup>ヨサ</sup>女史ニムだけが日本に来たんですよね？ いったんみな引き揚げた後に。  
高：そうそう。

### 《李徳九・金大珍との出会い》

高：その間、<sup>シンチョン</sup>新村の小学校、そこに入って、1年くらいかな、1年半くらい、2年近く、そこでちょっと韓国語、字を習いました。

そのかわりあえて、これ恥ずかしい話やね、日本の先生らに言うのは。自分の国の恥

やけれど、すごくびっくりしました。わたしは日本におってもね、ソロバンで初段までもらった人間なのよ。それが、暗算とか、あんなんがすごかったから、それをやったら先生がびっくりして。算数の時間とか、あんなとき、ソロバンとか教えてくれ、言うて。そんなね、レベルの低い人が先生やった。ほんまにこっちが先生やりたいくらい。やっぱり日本の教育、レベル高かったな。それも記憶してますわ。

で、特別覚えているのは、私を、まあ言うたら半分政治家に引っ張って行ったのが李<sup>イ</sup>徳<sup>ドク</sup>九先生<sup>(④-⑤) 1)</sup>とか、そんな先生に説得されて。4・3事件のこととかね。

——<sup>キムデジン</sup>金大珍先生<sup>\*4</sup>も？

高：<sup>キムデジン</sup>金大珍先生も知ってますよ、そうそう。

——<sup>イドドク</sup>李徳九先生からも直接習ったんですか？

高：わたし？ ええ、ええ。あの先生と<sup>イドドク</sup>李徳九先生が私を誘い出した、な。こんなところで勉強するのもええけれど、僕らは起ち上がらな、あかんねん。今、朝鮮は単独選挙<sup>\*5</sup>で、もう、どないなるか分からん、アメリカの支配のもとで、どうなるか分からんから、今、起ち上がろう、いうことで説得されて、私がね、あ、そうですかって。じゃあ一緒にやりますわ、ということでパルチサンの文書運びに選ばれて、それをやったわけ。だから<sup>キムデジン</sup>金大珍先生なんか、教えてもらったことがある。<sup>シンチョンハッキョ</sup>新村学校の先生やった。

——どんな教科を教えて？

高：あの先生は、国語やな。

——日本軍の軍服を着ていたって、よく言われるんですが……？

高：私は軍服着てるの見たことないよ。普通の服で。そらあ、最後は<sup>ハルラサン</sup>漢拏山で、ちょっと自分がしんどい時に昼寝やって、敵に見つかって。あないして、えらい目に<sup>お</sup>遭うて虐殺されたみたいやけど、その時に軍服着た？ それは知らない。

### 《新村での学校生活》

高：当時、女の友だちね、ほんとうに私が一番若い。韓国の学校はね、私より五つも、七

1) 既存の研究や当時を知る人びとの証言では、李徳九が「朝天中学院」で教師をしていたことは指摘されているが、新村小学校での教員の経歴については確認できない。しかし高蘭姫さんは「新村小学校」で、李徳九に出会ったと記憶している。



つも、三つも上の人ばかり。それでも新村シンチョン小学校いうてね、そこへみんな、終戦後やから習う、いう意欲で入ってきた人。そんな時代でしたわ。すごく文化的にも遅れてました、済州島は確かに。今はみな、教育熱心で進学も一所懸命やってる、いうこと聞いて私も喜んでるけど、私らのおった時代はそうじゃなかった。

——その時は男も女も一緒やったんですか？

高：あの時は、私らはみな一緒、男女共学。

——生徒に女の人が多かったですか？

高：いやいや、多いことはないわ。やっぱり男の人、男の子が多かったわ。

——言葉は？ こっちから向こうに行かたって、朝鮮語はどう？

高：全然。使わへんし、分からん。向こう行ってから。だから職員室に、よう呼ばれて笑われたよ。私が班長することないのに、しっかりしてる、いうことで班長にさして、掃除がみなできたから報告に行くやん。ソジェ 타 헛습니다 [掃除終わりました] って。今は言えるのに、それを何十回も言わして笑ってるねん、先生が。そういう目にもあった。分かるわけないやん。

——そしたら、だんだん向こうで生活する中で？

高：そうそう。やっていくうえで習ったし、学校行っても習ったし。

——でも、そういう子たちが結構、多かったんじゃないんですか？ 朝鮮語が全然分らない、日本から来た……。

高：いや、そんな多くないよ。それは勘違いしてるわ。日本から帰国したというのは、おれへんよ、解放後。みな本国の人らやで。

#### 4・3 事件の中で

##### 《追われる立場》

高：私、今はこんなやけど、ここに金齒二つ入れとってんね、戦時中に。おてんばやっせんね、私。ほんならね、男の子でも女の子でも、金齒入れてる女の子って珍しいから、

みなが見物に来るねん。「こんな遅れた国って何やの？」って。まあ、日本でも私はおてんばやね。お金もあるから、そうやったと思うけれど。そのために私はもっとひどい目に遭うたわね。4・3、4・3事件の地下活動やる時も、村を包囲されましたよ、全部。私一人捜すために。ほな、どう言うたかいうと、前歯に二つ金歯ある女の子やいうて、それをみな捜せ、言うて。

私、今、靴下履いてるけど、ここにものすごい大きな傷あります。というのは、この家から向こうの家に行くのに、濟州島はタム [塀] いうて、ものすごい塀が高いの。石で塀があるのね。その塀を乗り越えて、向こうへ渡ったら、表からやったら、家15軒くらい、渡らなあかんぐらいなところに、私が跳んでいって、「私を隠して下さい」言うて。ほな、そこのおばちゃんが「なんで？」と。「私を捜しに来てんねん、そんないちいち説明でけへんから、とにかく隠してくれ」言うたら。あんたたち、わかるかな？ 麦の、<sup>コシラフ</sup>마시락ていう、麦の先のほうの細いやつでね、刺したら痛いやん。痒い、痛い。濟州島では、なんでそれをいっぱい置いてあるか、いうたら、オンドルに炊くねん、その屑を。オンドルで炊いたら、すごいよく燃えて温いから。冬の間、オンドルにするために山のように積んであるところ、そこに隠してくれたのよ、そこのおばちゃんが。部屋とか全部、開けて見るから、それはダメよって。

—それはどこにあったんですか？

高：マダン [庭] いうてな、表にあるやん、倉庫みたいなん。入ったら、すぐにそういうところがあるねん。物置場、馬小屋、牛小屋、その横に。<sup>コシラフ</sup>마시락て言うてね、麦の細いやつ。その中に隠してもらって、2時間ぐらいやったら、みな、引き上げて出て行ったということで、それから私が出て来たんや。

—なんで、<sup>ヨサ</sup>女史ニムを探しに来たんですか、人が？

高：これは、あれしてる、言うて。地下活動のスパイやってる、言うて。

—誰かが密告したんですか？

高：密告したんや。その密告はね、ほんとに私がいつも言うのはね、なんで朝鮮人が朝鮮人と殺し合いするか、いうことが、それが今でも私は悔しい。これが一番、何よりも情けないの。

私の家に入ったところにね、冬の間食べるサツマイモあるやろ、サツマイモを埋めとくねんな。地下掘って、藁いっぱい入れて、その中にサツマイモを埋めて、食べるよ

うになってるねんね。その中に、そのサツマイモを取り出して、私のお父さんが地下活動をやってる青年たち、私をはじめとして青年たちを隠してあげたの。隠してあげた一人が逮捕されたわけや。で、おまえ、どこに隠れとった、いうことになって、うちの家を密告してしても、その穴掘ってみたら、あと埋めても柔らかいから、すぐに分かるやん。それから、うちのお父さんが逮捕されて、それで、<sup>シンチョン</sup>新村の学校のマダンあるやろ、あそこに猫も杓子も全部連れて行った、男は。男は一番初めに全部逮捕した。

私のお父さんは日本におっても、そんな別に大した労働せえへんから、<sup>さいしゅうとう</sup>済州島に行ってもまだ間がないから、お百姓してないやん。手をこうして見たら、すごいきれいねん。手のきれい人はこっち、手の汚い人はこっちと分けはったんや。そんで手のきれい人だけが連れて行かれたんやな。働いてない、これは政治活動をやってると、それで結論づけやな。

そうやって行って、その時はまだね。事件がまだ大げさになかった時やから、お母さんが行ってから頼んで、一回は釈放してもらった。その時にお父さんが私に、おまえはとにかく、ここにおったら虐殺されるか、逮捕されて大変やから、とにかく日本に逃げ、と。その前は、半年や1年くらいは〔連絡係を〕やりましたよ。

### 《連絡係としての仕事》

高：新聞〔『月刊イオ』の記事〕にも書いてあるようにね、私は長い髪の毛やったから、ねじってピン留めはめて、<sup>コスンデクドク</sup>마늘대구덕、丸っこい籠があるのよ、済州島には。ちょっとお出かけする時の、ここでいうハンドバックみたいな丸い籠や。その籠を手につけて中にちょっと入れて、それで地下活動やるわけや。私が持っていったのを、このトンム〔元来「友」「仲間」の意だが、社会主義者たちが「同志」の意味で用いるようになったため、今日の韓国ではほとんど使用されない〕に渡して。この人にあげたら、この人はまた<sup>ハルラサン</sup>漢拏山までの間に、何人かを通じて持って行く役や。今、末端ではこういう活動してる、こういう事件があるいうことを上に、上に知らしていくことが。<sup>ハルラサン</sup>漢拏山のところ、<sup>イドック</sup>李徳九先生のところまで持っていかなあかん。その活動をやってたもんやから、その人が全部密告してしもうたから、私を捕まえに歩いたわけ。捕まえられるということは、そういうこと。

——どこからどこまでレポ、っていうか連絡をやっていたんですか？

高：分かるかな、<sup>シンチョン</sup>新村の坂道を上がっていったらノヌル里〔現在の朝天邑臥屹里〕というところがあるねん。ノヌルと、それと<sup>ちようてんめん</sup>朝天面の<sup>ハムドク</sup>咸徳というところもあるし、2カ所担当

してましたわ。

——それはどういうふうに連絡を受けはるんですか？

高：受けるのは、どこまでおいで、て言うやんか、相手が。みな口コミや。何もそんな電話があるわけやない、携帯があるわけやない。人間が来るの。人間が来て、そっとくれたら、それを持って、ズーと流れていかな。

——それは何か書いたものがある？

高：もちろん、もちろん、書いたもん。

——それを渡されて。中身は見ないんですか？

高：そういうもんは見るもん違うから。見やんと [見ないで] 次から次へ運ぶだけ。

——村に書く人がいて、その人から受け取って、ということですね？

高：そうそう。そのときに言いはんねん。次に会う人はどういう顔形で、どういう髪の毛して、どんな服着てる、いうことを。それだけ为目标にして行ったら、その場所に立っ  
てはる。

——女の人でした？ 待ってる人は？

高：ううん、男の人や、みな男の人。

——じゃあ女の方は先生 [高蘭姫さん] くらいですか。

高：女の方は私は担当したことないな。女の方は女の人で、別のところがいっぱいあるやんか。済州島さいしゅうとうの村がな、いっぱい面があるやんか。私が担当したところしか、私には分からん。他の友だちの担当は、聞くわけもないし、言うてくれるわけもないし。それは知りません。それは秘密です。

——じゃ、一人で行かれるわけですか？

高：もちろん一人や、みな一人や。

——昼間に？ 夜に？

高：夕方もあるしな。夜はあんまりない。夜は、こんな言うて悪いけど、山から降りてき

て、交番所の巡査なんかな、こんな奴は自分らの敵や言うて。いままでの帝国時代から日本の犬や言うて、殺さなあかん言うて、マジに。その殺す家の、門番？ この家に入ろうとしたら、玄関で見張りするんや。それは女の人がやってる。私の友達二人ぐらい。中ではもうすでに寝てるよ、その巡査が。その寝てる巡査を、その当時は何で殺したか、知ってる？ 銃も包丁も何もないで。竹槍、竹槍。あの時初めて見たな。竹槍で刺して殺しといて、ウチらみな、逃げんねん。逃げたら、明くる日は、どこそこの誰それが殺されたって、村で大人が聞いて来て、言うねん。私らそれ知らん顔。知る振りもない。あの人も若いねん、死んだ人も。

《活動の実態》

——<sup>イドック</sup>李徳九とか<sup>キムアジン</sup>金大珍先生から誘われて、そういうふうな仕事をするようになったって言うたけど、そのときに青年たちの会合があったりとか、そんなこと、もうちょっと詳しく覚えてることあります？

高：会合は、私の家にも、2、3回したし。だから結局そういうスパイがね、ほかに居んねん。<sup>おんな</sup>同じ同志の中にいてる、いうことやってん。それであないして虐殺されてるんやんか。

——家で集まった？ それは仲間の家の？

高：仲間の家。

——その仲間いうのは、だいたいどれくらい、いてました？

高：まあ、5、6人やね。

——この人たちはだいたい同じくらいの歳？ 一番下やって、言うてはりましたよね。

高：私一番下やん。みんなもうナニやで、10歳くらい上の人もおったよ。女の人で。

——とくに青年同盟とか？

高：そなん、あれへん、あれへん。そんな青年同盟という名の下で、こんな活動はしてない。してないし、なかったのと違う？

——学校で誘われたんですか？

高：そうそう。

——何年ですか？ それは<sup>サ サ ム</sup>4・3の前ですよ？

高：もちろん。<sup>サ サ ム</sup>4・3はこれからね。<sup>ボンギ</sup>蜂起<sup>ほうき</sup>、蜂起するいう前に、みんなあの人ら分かっててな、<sup>イドック</sup>李徳九とか<sup>キムデジン</sup>金大珍とか。上の人らは分かってんねん。ただ下に、自分らの手下に、役を欲しかっただけやねん。その役が、私らが選ばれた、いうことや。隊長、副隊長やろ、あの人ら。

——まだ学校の先生は、してたんですか？ もう学校の先生はやめて？

高：もうやめたやめた、やめた。それがまた、<sup>シンチョン</sup>たまたま私の村、新村の、お母さんの親戚やねん、<sup>イドック</sup>李徳九が。うちのお母さんが。

——<sup>チョンジュイシ</sup>全州李氏なんですか？

高：そうそう、<sup>イギジョン</sup>李起貞いうてな、お母さんの名前が李家でしょ。それで、親戚やからもあるし、<sup>シンチョン</sup>新村学校の中で、もうちょっと、しっかりしてる、いうのもあって、選んだと思う。たいがい見たら、<sup>ソツ</sup>西トンネ\*<sup>6</sup>ってあるやろ、<sup>ソツ</sup>西トンネ、<sup>トン</sup>東トンネ、そういうところから5人くらいあったな。ほかの村は、ほかの村でやるやん。<sup>シンチョン</sup>新村だけのこと言うてんねんで。うち、ほかの村のことまでは感知もできない、知ることもできない。知ろうともしない。私らは<sup>トン</sup>東カルムいうて、お水の近い<sup>トン</sup>東トンネ。クンムルあるでしょ、クンムルからも一人ね、おるし、<sup>ソツ</sup>西トンネが3、4人おったわ。

——この5人で会議するとき、誰か来ます？ 誰か上の人、偉い人が。

高：上の偉い人、<sup>け</sup>来えへん。

——この5人の中で、一番のリーダーがいてるんですか？

高：そうそう。

——その人が、だいたい指令持ってきて話をする？ 今度こういうことをするとか、いまどんなになってるとか、いう話を？

高：そう。そやから、おまえは今度、これ持ってかな、あかんでって。で、どんな格好でどんな人がおるから、その人に渡したらええねん、そこで待ってるはずや、とか。威<sup>ハム</sup>徳<sup>ドク</sup>やったら威徳<sup>ハムドク</sup>の海辺の近くとか、入る入り口とか。

《日本での4・3情報》

——人が、<sup>イドック</sup>李徳九さんのこと、<sup>キムデジン</sup>金大珍さんのこととか、どういうふうに言うてたか記憶ありますか？

高：死んだ時にも噂が日本まで流れてきてる。

——その時どんなこと言ってました？

高：その時はな、今勝ちそうやと。済州島のアレが勝ちそうやと、統一すると、そういう意気込みが今ある、と。そう聞くと、逃げやんと [逃げずに]、済州島で一緒にやっとならよかった、いう気持ちがあった時もあった。

——日本でそう聞いてたんですか？

高：聞いてたよ。なんで言うたら<sup>シンチョンサラム</sup>新村人らが多いから。あの<sup>トック</sup>徳九さんが<sup>シンチョンサラム</sup>新村人やからよう聞いたんや！うちの村の、家でいうたら知れてるねん。道でいうたら、ちょっと離れてるわなあ。こっから駅ぐらいもないわなあ<sup>2)</sup>。同じ<sup>トン</sup>東トンネやから。だから、よう聞いた。お母さんと親戚やし、<sup>トクジエン</sup>頑張ってるよ、<sup>トクジエン</sup>闘争やってるよう、て聞いた。

それがある日、そういう死に方して。もう、あかん。それから、みんなが逮捕された。この人も逮捕した、あの人も逮捕した。<sup>チェジュド</sup>済州島の女の人は、はりつけにされてな。もう、すごいことやられた、いうてな。口に出して言われへん、そんな死に方やって。どんだけ泣いたかなあ。日本で、もう、ほんまに泣いた……。

——それは順に、<sup>チェジュ</sup>済州から来る人の話でだんだん分かって？

高：それもね、やっぱり密航者から出てくるねん。密航者が言うてるねんで。何もな、電話があるわけじゃない、手紙が来たわけじゃない、その人、見たわけでもない。密航は依然と来んねん。で、「今どうなってる？」って聞いたら、あんなやこんなや、最初はええ話しか聞けへんかったわ。最後に、誰それも逮捕された、もう、あかんようになって<sup>トック</sup>徳九が死んだ、いうたら……。

——追悼会をしたり、追悼集会をしたりというようなことは、なかったんですか？\*7

2) 高蘭姫さんのご自宅よりJR寺田町駅まで、高蘭姫さん自身の足で3～5分程度の距離であるという。

高：とんでもないよう。日本でそんなこと、とんでもないよう。何人がどこにおるかも分からへん。そういう活動をしたことすらも、知れないように生きてきた、それはね。先生ら、あれしたらあかんで。なぜ私が今、語れるか、今だから語れるから、言うてんねんで！

《密航と父の死》

——抵抗ってというのは、なかったんですか？ 怖い目に遭うっていう、それでもやるっていう気持ちは……？

高：私は正しいから、やってる。単独選挙、反対せなあかん。朝鮮は朝鮮の、自分の民族どうしで起ち上がらなあかん、と思うた。アメリカの後ろ盾で、西北青年団<sup>ソブクチョンニョングン</sup>(④-17) いうたら、一番、悪い奴らやねん。<sup>りくち</sup>陸地から、<sup>ソブクチョンニョン</sup>西北青年いうて来てんねん。その人らが来てんねん。

——<sup>シンチョン</sup>新村にも来てました？ <sup>ソブクチョンニョングン</sup>その西北青年団？

高：もちろんや！ <sup>アボジ</sup>私のお父さんを殺したんは誰やのん、<sup>ソブクチョンニョン</sup>西北青年や！

——<sup>シンチョン</sup>新村に駐屯してました、その人たちは？ それとも<sup>ハムドク</sup>咸徳から来たり？

高：そうそう、そないしてる。あいつらもあいつで、地方にばら撒いておいておいて、<sup>ハムドク</sup>咸徳が本拠地かな？ 知らんけれども。

私は<sup>ハムドク</sup>咸徳で、自分のお父さんが殺されるのは、私は見てないです。夜は会合とか、たまにあるやん。帰ってくるやん。お父さんが呼んで説教するねん。なんて説教するか分かる？ 私とこの<sup>コガ</sup>高家、自分の家の<sup>こうけ</sup>高家は、名を売って偉い人が出たことがない。おまえは女でありながら、なんで、そんな大それた役をやるねん、幼いおまえが、と。なんでやねん、って。なんでもええやん、言うて。国のためにやってるねん、お父さんも国のためにやってたやろ、その血をひいてんねや、そやからウチがやってんねや。こない言うた。

そのお父さんがある日、<sup>シンチョン</sup>新村の<sup>ウォンダンボン</sup>ウェンダンオルム [元堂峰] いうところから密航船が出るからってニュース聞いてきて、船賃はちゃんとお父さんが出してあげるから、おまえは日本に逃げ、て言われてん。それが16か17歳ぐらいやったわ。そんな娘盛りをな、お父さんがお金をこしらえて、密航船に乗せて、出て行け、言うぐらいやから、よほどやと思う。私は今でもそう思う。

で、送り出す時に、お父さんが言うた言葉。僕は10月ごろになったら、おまえを迎え



に行く、と。私が出て行ったんは、7月か8月やったと思いますわ。私とこ、牛と馬がおったから、その餌、餌は何をやるかいうと、새, <sup>セ チョル</sup>총\*<sup>8</sup>いうてありますわ、草。夏の間<sup>8</sup>に切<sup>て</sup>て、それをいっぱい重ねて、丸くやって置いとかとあかんから、その牛と馬やるやつ<sup>の</sup>餌、段取りしといて。10月ごろになったら、自分の手が空いた時に、おまえを迎えに行く、と。そういうことを言うてました。

「ウチは済州島<sup>さいしゅうとう</sup>から一足先に逃げとくから、お父さん、絶対<sup>ア ボ ジ</sup>に迎えに来てや」言うて。ほんで私は船に乗った。乗ったら、どうしたと思う？ ほんとに私はその時のことが今一番、胸が痛い<sup>の</sup>ね。李徳九<sup>イ ドクク</sup>さんと大珍<sup>テジニ</sup>さんが来てた、船場に。密航<sup>4・3</sup>で出るいうこと、分かつてるねん。乗ってみたらね、ものすごい数や。日本に逃げに来てんねん。4・3<sup>サ サ ム</sup>闘争<sup>トウジエン</sup>に、その地下活動<sup>トウジエン</sup>やってた人らが乗ってんねんな。私だけじゃないよ。ほんでね、李徳九<sup>イ ドクク</sup>先生<sup>イ</sup>が言うのに、みんな、良心<sup>ヤンシミ</sup>があるかって。양심<sup>イ</sup>이 있어? 없어? [良心<sup>オプソ</sup>があるのか? ないのか?] 君たち、良心<sup>ヤンシミ</sup>があつたら今すぐ降りろ、こんな大事な仕事の途中で自分<sup>トビジャ</sup>らだけ逃げて、どうするんやと。おまえらは逃避者<sup>トビジャ</sup>やと、自分の国を捨てて逃げた逃亡者<sup>トビジャ</sup>やから、二度と、祖国の土を踏まれへんぞと、こういうことを言うねんや。

そやから私は、ちょうどハンカチみたいなタオル持<sup>っ</sup>てて、後ろの方に座<sup>っ</sup>てね。こうして [タオルで顔<sup>を</sup>] 隠しながら、それを聞くねん。降りようか、座<sup>っ</sup>とこか、降りようか、座<sup>っ</sup>とこか、どれだけ葛藤<sup>した</sup>、自分の胸<sup>で</sup>（涙声）。でも、お父さんの言葉があんねん。お父さんがな、ない金<sup>で</sup>、あつた金<sup>か</sup>も知らんけど、おまえはここにおつたら死ぬ<sup>から</sup>、早く日本に逃げとけ、言うて。日本に親戚<sup>が</sup>二人おつたんや。いとこと、お母さんの弟<sup>の家</sup>があつたから。そこを頼<sup>り</sup>にして、逃げえ、言うて、逃<sup>が</sup>してくれた、その言葉<sup>が</sup>。まあ、葛藤<sup>して</sup>。またね、徳九<sup>トクク</sup>さんと大珍<sup>テジニ</sup>先生<sup>が</sup>来て言うてることも、納得<sup>する</sup>。でも降りた人は降りた。降りた人は降りたけど、私は降りなかつた。

降りやんと [降りずに] 日本<sup>ウエサムチヨン</sup>に来て、で、自分が外三寸<sup>いうて</sup>、お母さんの弟<sup>の家</sup>におつた時に、誰かから伝<sup>わ</sup>ってきたのは、お父さんはその後、また逮捕<sup>された</sup>。逮捕<sup>されて</sup>咸徳<sup>ハムドク</sup>いうところに連れて行かれて、すごい拷問<sup>受</sup>けて。自分で砂場<sup>を</sup>掘<sup>れ</sup>、犬<sup>み</sup>たいに掘<sup>っ</sup>て、その前に立<sup>っ</sup>たら、そこで後ろ<sup>から</sup>銃殺<sup>された</sup>。もう砂かぶすか、かぶせへんかやろ。

何カ月かしてから、迎え<sup>に</sup>来い、いう通達<sup>があつた</sup>時に、うちのチャグナボジ<sup>いうて</sup>お父さんの弟<sup>らと</sup>、娘<sup>5</sup>人もおるし、お母さんがご馳走<sup>モルクルマ</sup>こしらえて、말<sup>말</sup>루<sup>루</sup>마 [馬車<sup>馬車</sup>] いうて車の後ろ<sup>に</sup>、みんなご馳走<sup>こ</sup>しらえて、みんなで行<sup>っ</sup>た。行<sup>っ</sup>た時に、これじゃ<sup>って</sup>言うねん。

——生きてると思って行きはった?!

高：生きてるとびっくり思うたわけや。生きてるから迎えに来い，言うてるとびっくり思うて。連れて行かれたところが，その砂場のところで，もう見たときには，虫が湧いてたっていうもの。私に10月，11月に迎えに来る言うてたお父さんが，10月12日が法事です，陰暦でね。だからこの間は12月何日やったかな？ その時，お父さんの法事で，今でもお父さんの法事の時は連絡しますよ，今日は法事やねえって。

——被害者申告をされたんですか？ 向こうで。4・3の。

高：はい。やりましたけど，誰もいてないからやけどね。それから百祖一孫<sup>ベクチョイルソン</sup>\*<sup>9</sup>いうて，どこか新しく造ったみたいやろ。そこへうちの主人の弟一人だけはね，飾っていただいています，お墓に。

——お父さんの被害申告は，どなたがされたんですか？

高：済州島に養子<sup>さいしゅうとう</sup>\*<sup>10</sup>の弟がいますねん。弟がみなやって。

《日本への到着》

高：覚えてるのはあの時は夏やから，暑い時いうのを覚えてるからな。密航してから，あれしたのは。その密航をして，大阪までたどり着くのも大したものやで，あんだ。あれは日本に住んでたから，逃げられたと思う。何で言うたら，降りたらね，ぶわーっとね，誰かが追いかけて来るんよね。助けてあげるわ，いう声をね。

——日本のどのへんに到着したかっていうのは？

高：だから西宮。そこからさーっとみんな，あれやで，うわーっと散るんやで。散ったら，私は何でか言うたら，そこはちょっと詳しかったん。甲子園球場やら。全部歩いて甲子園で乗ってるもん，電車で。

——普通はそのあたりは密航に来るんやけど，釜山からやと西宮までは来えへんな。下関とか。

高：だからね，ウェンダンオルムからね，その時に，西宮に到着してる時にびっくり。みんなは分からへんから，自分だけの命を守らなあかんから。それやのにね，誰かが助けてあげるって言うてみたいやけれど。その人にね，日本の人に捕まる思うて逃げた，逃げた，逃げた。もうその記憶はもう，ほんまに<sup>센센함니다</sup>생생합니다 [はっきりしてます]。お

そらく私は、それはうちの朝鮮人の団体やないかと今は思う。ほんとの日本人やったら、しばらくそんなに追いかけてへんと思うよ。追いかけて来るん。それをもう、逃げて、逃げて。そのとき止まってたら、その人が家で泊めてくれてると思う。

——2泊か3日ぐらいで行きましたか？ 2泊3日くらい船に乗って？

高：そうそう。

——船を動かしてはる人は、どういう人だったかは分かるんですか？

高：それは分からんけれど。全然分からん。

——どれくらいの大きさでした？

高：さあ、あんた50人くらい乗るから。小さな船や。こんなんやで、ほんまに。

——どんなところに入っていました？ 船底でした？

高：いや、普通にそのまんま。

——上に、甲板に？

高：上に、テント。そやから、ただ、水がもらわれへん、ものがあんまり食べられへん。ほんまに今な、水が汚染してるの飲んで、どうのこうの言うてるやろ、みんな。私はどんな水飲んでも何ともない。というのは、缶1個くれんねん。それで便を取ったり、小便せん、ならん。それでテント開けて、船からポンと海に放んねん。海の水、なんぼのど渴いても飲んだらあかん。もっと渴く。そのウンコ、シオンベンしたカンカン、テントで穴開いてるやん、そこからそれで〔雨水を〕受けて、その水を飲んだ。それ今な、汚染時代や、水がどうのこうの、いう時代。考えられる？ 私はそうやって生き延びてきたっていうこと。

——その船に同じ新村シンチョンの人乗ってました？

高：もちろん。

——何人くらい？

高：3人くらい乗ってた。日本に来てもな、朝鮮市場とか猪飼野行ったらな、会うねやんか。うわ一言うて、もう、そらあもう抱きついて。

——それは、一緒に集まった人ですか？ それとも、そうじゃない人？

高：その人ら。

(以下、次号)

\* 本研究は科学研究費補助金（課題番号18530396）の助成を受けたものである。

## 【用語解説】

### \* 1 徴用

日本の国家権力が、直接、朝鮮人労働者の動員の乗り出したのは、日中戦争全面化（1937年）後の戦時体制下においてである。1938年に制定された国家総動員法にもとづき、翌1939年7月に国民徴用令が公布、施行された時、日本政府は「労務動員実施計画綱領」を閣議決定し、そこで朝鮮人労働者8万5000人を日本内地に動員する方針を定めた。これにもとづき朝鮮では、各事業主が朝鮮総督府または各道の認可を得て労働者を「募集」する形式での動員が始まった。その後、動員方式は、アジア太平洋戦争開戦翌年の1942年2月に、労働者の選定から企業への引き渡しまでのすべての業務を朝鮮総督府側が担当する「官斡旋」方式へと移行した。さらに1944年9月からは、一般の労働動員に関しては、原則として国民徴用令（朝鮮では1939年10月に施行）にもとづき、国家権力が強制する「徴用」として実施されることになった。

一般に、朝鮮人労働者の「強制連行」とは、この「募集」「官斡旋」「徴用」の3段階を指すが、韓国ではこれら一連の戦時労働動員全体を表現する慣用語として「徴用」を使用する場合がある。

ところで高蘭姫さんの父親の場合、1930年以前に渡日したのであれば、国家権力による戦時労働動員とは直接関係がないはずなので、法的用語としても、韓国での慣用語としても、渡日の理由を「徴用」と見ることは困難である。植民地支配体制の下で、生活の糧をもとめて日本に渡航せざるを得ない状況におかれたことをもって、「徴用」という表現を使用されたものと、ここではひとまず解釈しておきたい。

### \* 2 吉原製油株式会社と連合軍捕虜

当時、西宮市今津真砂町に工場をもち、おもに海軍に納品する油脂を製造する軍需事業を請け負っていた吉原製油株式会社には、1944年12月時点で、36人のオーストラリア陸軍軍人の俘虜が従事させられていた。彼らの「収容所は神戸市東遊園地西側のもと外人クラブ敷地にあった」と記録されている（「吉原製油株式会社昭和19年在籍人員調べ」『西宮市史』第7巻、西宮市役所、1964年、322頁）。当時、吉原製油での労働に従事していた元捕虜の手記には「甲子園駅に着いた後、裏道の民家の通りを抜けるのだが、我々の姿が通りにいる子供たちの気を引かないはずはなかった。どうも彼等是我々の身なりと風貌から察して「アメリカの捕虜」と思い、そのように声高に叫んでいた」と記されている（ジョン・レイン〔平田典子訳〕『夏は再びやって来る』神戸青年学生センター出版部、2004年）。なお吉原製油は、2002年に豊年味の素製油と経営統合し、「J-オイルミルズ」となった。

### \* 3 解放直後の密輸事件

解放直後の済州島では、日本から自分の財産を持ち帰ろうとする済州島民および日本に商品を持ち込もうとする島民に対して、物資搬入統制を悪用した官吏の「暴利事件」が頻発した。この時期、暴利事件で取締りを受けた件数は南朝鮮内で済州島が最も多く、1946年7月から翌年3月までに1,450件にも達した（朝鮮銀行調査部『朝鮮経済年報』1948年）。

これには、次のような背景がある。解放直後、南朝鮮に進駐した米軍政は、軍政長官の許可のない他地域との物資交流・通貨流通を禁止した。植民地下で日本との物資移出入とそれによる現金収入に依存していた済州島社会は、突如日本との交易を遮断されたために現金収入が激減し、島内は南朝鮮の他地域以上に深刻な物資不足に陥り、「密輸」された非合法的な日本商品が出回るようになった。一方、GHQは帰国する在日朝鮮人に対して1000円以上の通貨の持ち帰りを禁止し、この基準を超える財産は日本に置いていくよう指示したため、植民地期、日本に生計基盤をもつ人の割合がきわめて高かった済州島では、自ら船を仕立てて財産を済州島に持ち帰る例が少なくなかった。こうした状況を利用して、密貿易取締り・物資搬入統制を名目に、軍政庁の官吏が商人らと結託して暴利を貪ったのである。代表的な事件としては1947年1月に起きた「福市丸事件」がある。

高蘭姫さんの父親が新聞用紙を没収されたのも、こうした状況において行われたものと推測される。

### \* 4 <sup>キムデジン</sup>金大珍

金大珍は、1921年に済州島朝天面新村里で生まれ、金達三や李徳九らとともに南労党済州島党の軍事部の責任者を務めていたが、1949年春に自宅近くの畑まで降りてきたところを銃殺されたという。なお既存の研究などでも、金大珍が新村小学校に勤務していたことが確認されている。

### \* 5 南朝鮮単独選挙（再掲）

1948年5月10日に実施された、朝鮮南部に単独政府を樹立するための代議員選挙。第2次米ソ共同委員会の決裂後、アメリカは朝鮮独立問題を国連に上程、臨時朝鮮委員会が構成され、政府樹立のための選挙を監視することになった。しかし選挙は北緯38度線以南だけで実施され、選出された代議員は憲法制定のため議会を構成（制憲国会）、李承晩が大統領に選ばれ、同年8月15日、大韓民国の樹立が宣布された。済州島では島民が漢拏山に入って選挙をボイコットするなどの手段で抵抗し、3選挙区中の2選挙区で投票率が50パーセントに満たず、選挙は無効となった。再選挙は遊撃隊への弾圧が峠を越した、翌49年5月に実施された。

### \* 6 <sup>ドン</sup>東トンネ・<sup>ソツ</sup>西トンネ・クムル

本調査報告（4・上）の\*2で述べたように、新村里では主に一周道路より海岸側にある集落を東西2つに分け、それぞれを東村（東洞, <sup>ドンチヨン</sup>동카름）、西村（西洞, <sup>ソツヨン</sup>서카름）と呼んでいる。동네は「集落」「界限」の意で、<sup>ドン</sup>동네は東村、<sup>ソツ</sup>서동네は西村を指す。また<sup>クムル</sup>큰물（「大きな水」の意）は東村・西村境界の海岸沿いにある泉で、湧水量が多いため地域住民の生活水の役割を果たした。この<sup>クムル</sup>큰물を中心として、現在の海岸地域にある新村里の集落が形成された。

### \* 7 大阪での追悼集会

当時、在日朝鮮人が日本で発行していた新聞には、大阪の済州島出身者集住地域で済州島での

犠牲者を追悼する集會が開かれたことが報道されている。それらによれば1949年1月3日に大阪の生野で「在阪済州島大静面親睦會」が主催した「人民虐殺反対追悼會」を皮切りに、禾北、朝天、北村、新村、咸徳、翰林、三陽、旧左面など出身部落単位で追悼會を催行した。こうした動きをうけて在日本朝鮮人連盟大阪生野支部や東成支部では、それぞれ同年2月6日と3月1日に、済州島をはじめとする朝鮮南部での「人民抗争」の犠牲者を追悼する集會を開催した（村上尚子「プランゲ文庫所蔵の在日朝鮮人刊行新聞にみる済州4・3認識」『在日朝鮮人史研究』35号、2005年）。これらの追悼集會についてはまだ不明な点が多く、とくに出身部落単位の集會は主催者や規模などの詳細が分かっていないため、このように伺ってみた。

#### \* 8 <sup>セ</sup> 새, <sup>チヨル</sup> 쉼

<sup>チヨル</sup> 쉼は本文中にあるように、冬に備えた家畜用飼料として、草を刈り取り家に保管しておくもの。<sup>セ</sup> 새は、<sup>チヨル</sup> 쉼によく用いられるチガヤのことである。

#### \* 9 百祖一孫之地

朝鮮戦争勃発直後の1950年7月16日から8月20日にかけて、予備検束されていた要視察者、入山者家族など、募瑟浦警察署管内の多数の住民が、海兵隊によって松岳山北東側の旧日本軍弾薬庫跡地に連行され集団虐殺された。（2007年11月に「真実・和解のための過去事整理委員会」が発表した公文書により、犠牲者は218名であることが明らかにされた。）遺族による遺骨の収集は、虐殺から6年後の1956年5月になってようやく認められたが、犠牲者の身元の識別が困難であったことから、骨を組み合わせて132体をつくり、大静邑上募里に造成した墓地に集団的に埋めた。遺族たちは「132人の祖先が同じ日の同じ時間に同じ場所で死に、骨が絡み合って一つになっているから、その子孫たちは全員が一つである」という意味をこめて、1959年5月「百祖一孫」慰霊碑を建て、この集団墓地は「百祖一孫之地」または「百祖一孫之墓」と呼ばれるようになった。しかし1961年、5・16軍事クーデター直後の6月15日に、慰霊碑は警察によって破壊されてしまった。その後、韓国社会の民主化と4・3真相究明運動の進展にともない、募瑟浦での集団虐殺事件に対する社会的関心も高まり、慰霊碑は1993年8月に再建された。

#### \* 10 養子

朝鮮の伝統的な家族制度は、「姓不変」「同姓不婚」さらに「異姓不養」を三大原則としている。このうち「姓不変」とは、姓が父系出自を示すことから、個人の生涯を通じて姓を変えることができないという原則である。父系出自の系譜では、長男を継嗣とし、祖先祭祀などを継承させるのが基本である。そこで長兄に男子がない場合には、弟の長男など、同じ父系出自の男性が長兄の養子となり、継嗣としての役割を担うことになる。日本の婿養子のような、異姓から養子を迎え入れる方式は、「姓不変」の原則より認められない（「異姓不養」の原則）。高蘭姫さんの場合も、男兄弟がいなかったため、父の養子となる男性を、父方の血族の中から迎えたものと見られる。